



記者発表

平成29年 1月25日
福島河川国道事務所

国道4号舟場町地下道
利用マナー向上対策実施のお知らせ
～ 安全な通行空間確保に向けて ～

国道4号と国道13号の交差点に位置する”舟場町地下道”は、通学・通勤で多くの方が利用しています。多くの自転車利用者は乗車したまま通行しているため、朝・夕の利用者が多い時間帯には地下道内で、自転車と歩行者がぶつかりそうになる事例が確認されています。

このことから、事故の発生を未然に防止するため、昨年度より関係機関による「マナー向上検討会」を実施し、対策案について検討を行ってきましたが、対策方法が決まったため現地にて工事を実施します。

1. 日 時：平成29年 1月31日～2月1日
※天候等の影響により延期となる場合があります。
2. 場 所：国道4号 舟場町地下道内
3. 対策内容：別紙による

発表記者会〈福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ〉

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所
福島県福島市黒岩字榎平36 TEL024(546)4331(代)

さの ともき
副所長(道路) 佐野 智樹(内線205)

ふなやま たいちろう
調査第二課長 舟山 太一郎(内線451)

○舟場町地下道の現状と検討経緯

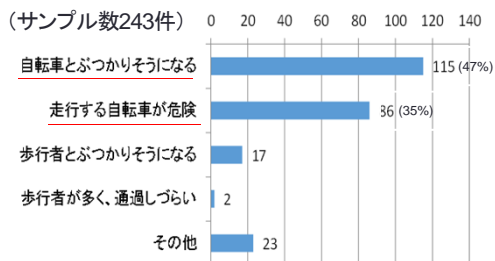
【利用状況】

- ◆総利用者数: **1680人/12h(内自転車利用者804人)**
- ◆周辺施設: 小学校1、中学校1、高等学校3、福島県庁、大原総合病院等
- ◆通学路指定: 有り(福島第一小学校)
- ◆H27.9地下道利用者数及び、利用者を対象にアンケート調査を実施

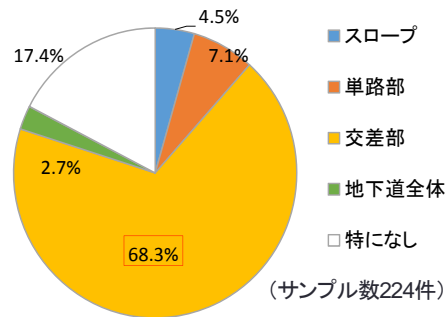
【地下道利用者のアンケート結果】

- ◆調査結果
- ・約7割の方が地下道交差部でのマナー向上が必要と回答
- ・交差部でのマナー向上を必要と回答した方の内、全体の8割が自転車との事故を懸念している。

【マナー向上が必要と思う理由】



【マナー向上が必要と思う箇所】



▽既存の対策自転車走行状況 (スロープ部)



▽ヒヤリ・ハット状況

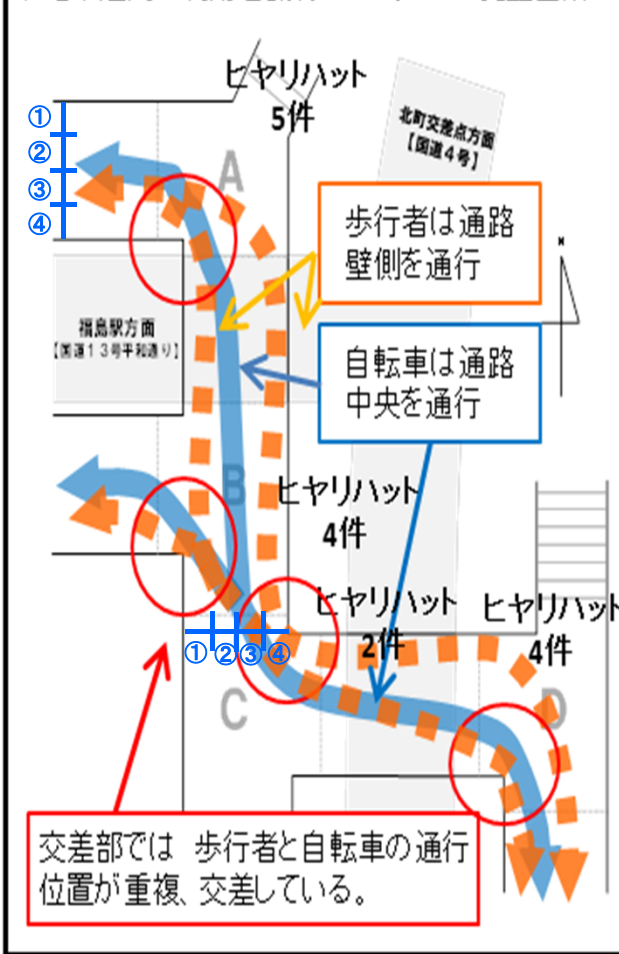


【要因分析と対策】

◆ヒヤリハットの要因と対策

- ・アンケートを基に通行位置を4つに区切り、歩行者と自転車が何処を歩いているかを調査
- ・データ分析の結果、人は主に壁際を歩き、自転車は曲がる際に壁際に寄って走行している
- ・分析結果を受け、「地下道交差部壁際での自転車と歩行者の分離」「自転車に降車を促す」を目的に対策を検討

◆地下道内で利用者動線とヒヤリハット発生箇所



【検討経緯と対策】

【平成27年12月】

福島市、近隣高校、地元親和会等をメンバーとした「舟場町地下道利用マナー向上検討会」※を開催し現状と問題点を確認。

【平成28年2月16日】

「舟場町地下道利用マナー向上検討会」を開催し、メンバー全員で現地を確認し、対策案を選定。

【平成29年1月】

選定された対策を実施。

※舟場町地下道マナー向上検討会は、平成27年より自治体、交通管理者、地元代表者、周辺高校等をメンバーとして、マナー向上の方策を検討(別紙)

○舟場町地下道マナー向上対策 実施内容

【設置物】

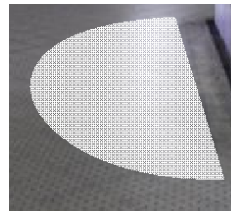
ラバーポール
(自発光式)



絵文字



交差点隅切
部の着色



凡例



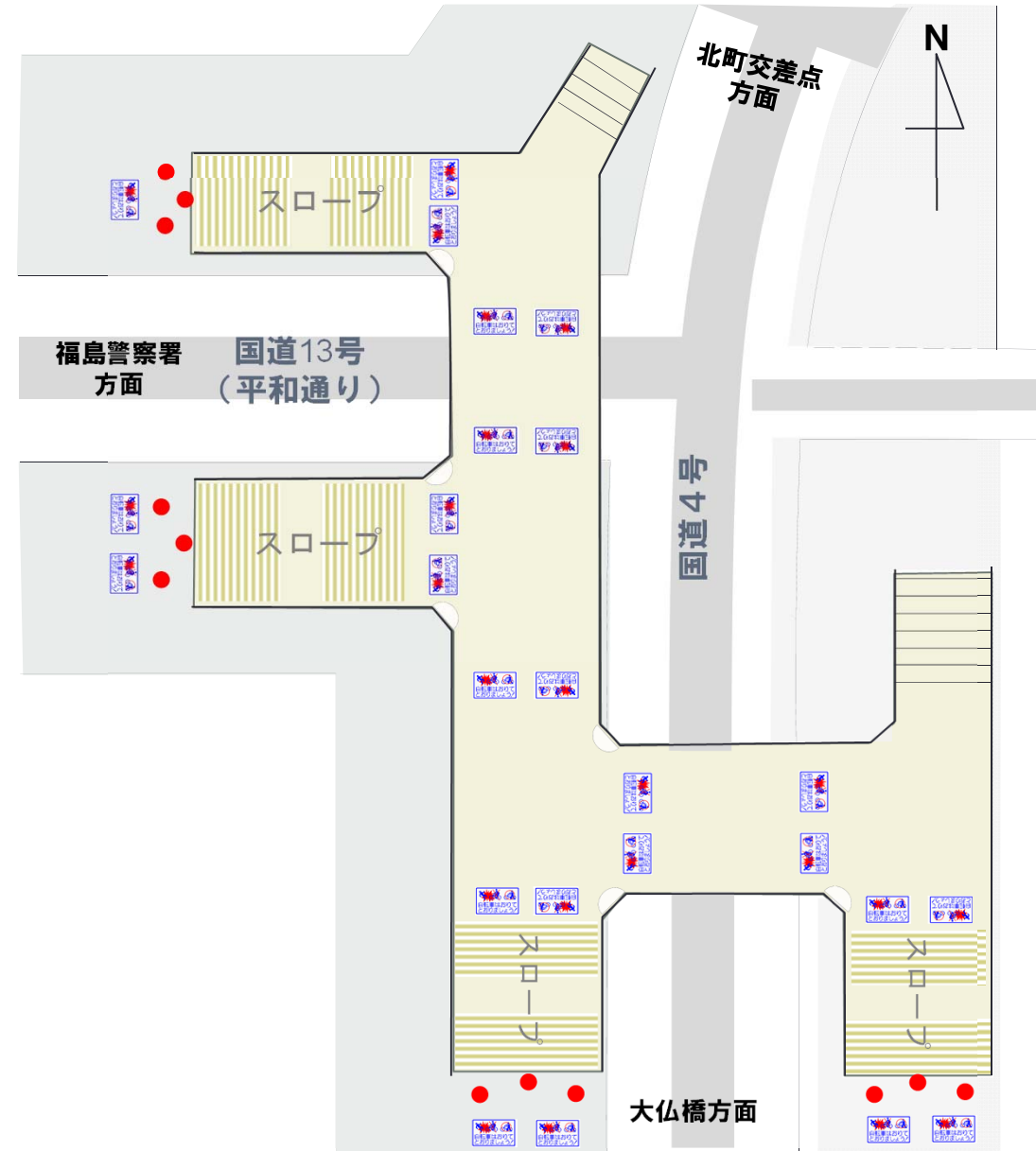
: ラバーポール



: 絵文字



: 交差点隅切部の着色

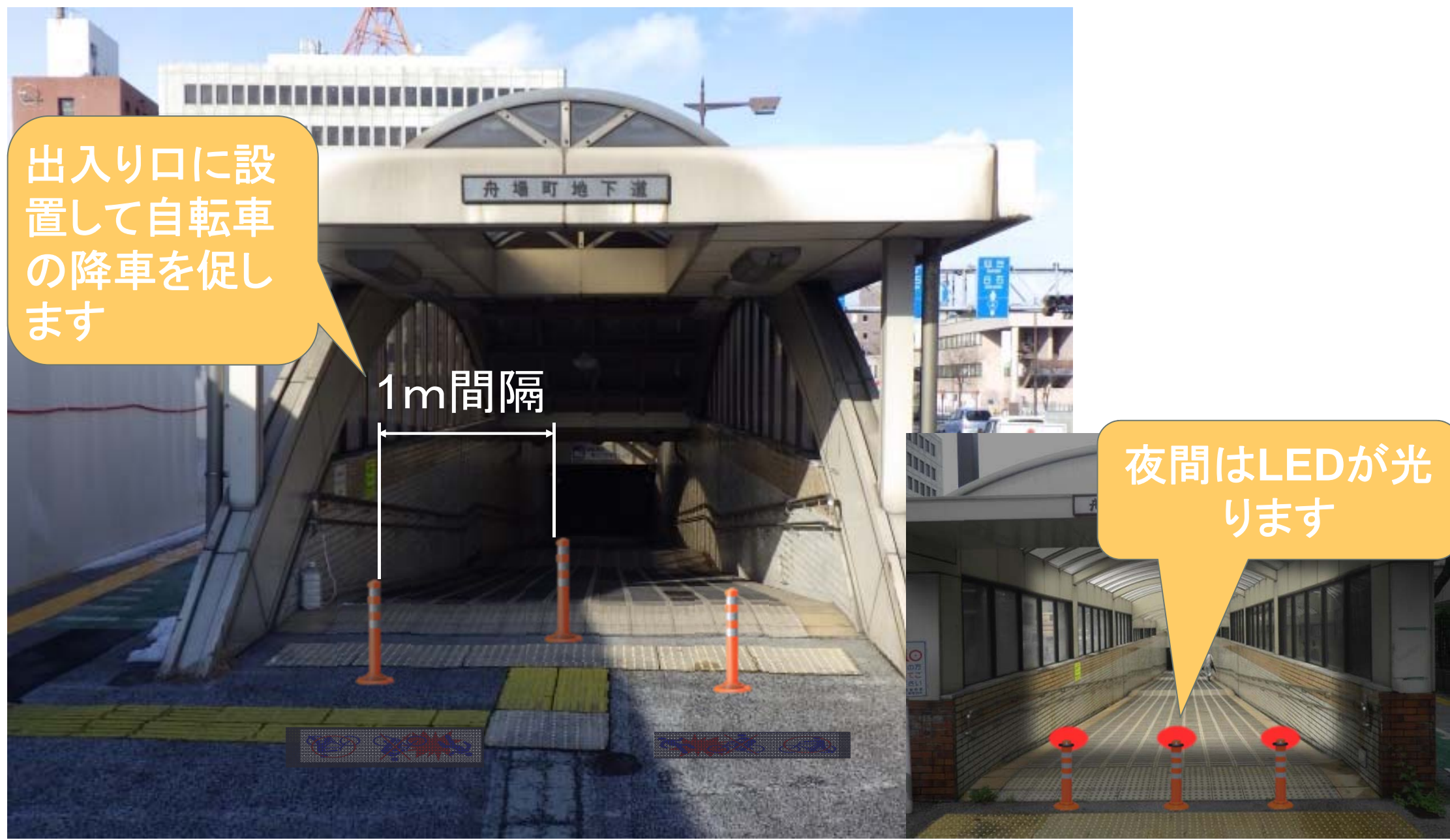


○設置イメージ(ラバーポール)

出入口に設置して自転車の降車を促します

1m間隔

夜間はLEDが光ります



○設置イメージ(絵文字)

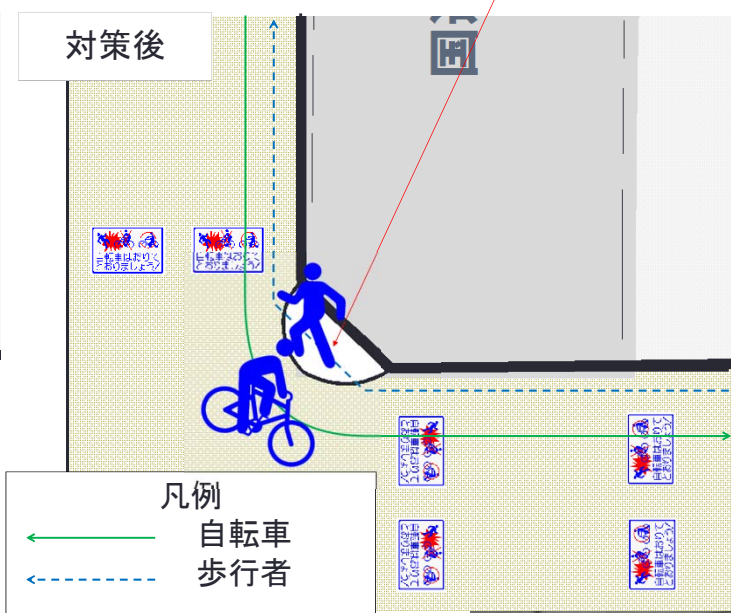
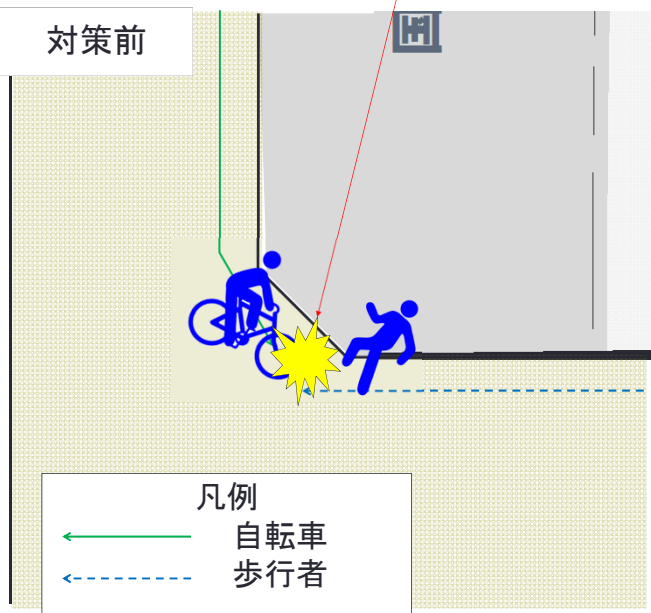


出入り口や通路内に設置して自転車の降車を促します

○設置イメージ(交差点隅切部の着色)

【現況】交差点隅切部
ヒヤリハット(出会い頭事故)が
発生

【対策】交差点隅切部に着色
ヒヤリハット(出会い頭事故)を
抑止



交差点隅切部を着色
して歩行者と自転車
を分離します



(別紙)

”舟場町地下道”利用マナー向上検討会 構成機関

福島県 福島警察署 交通第一課

福島県立福島東高等学校

福島県立福島南高等学校

福島成蹊高等学校

舟場町親和会

福島市 都市政策部 交通政策課

国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所